

学校の体育館が みんなの劇場になった日

ほうこくします！

2018.2.17 今井小学校



今年、第2回目を迎えた、いろえんぴつプロジェクトの「グレイッシュとモモ」。例年以上の寒さが続く中で、この日今井小学校の体育館は、昨年以上の来場者を迎えて熱気に溢れた空間になりました。笑って、泣いて、びっくりもして、想像力がエネルギーになる空間をみんなで作ることができました！



●上演日時

2018年2月17日(土)
13:30開場 14:00開演

●上演開場

中原区今井小学校体育館



子どもも
おとなも
観劇無料

ひろがれ！ そうぞうりよく

いろえんぴつプロジェクト

だれもが自分の「色」で、自分の「心」を表現できるように。
豊かな想像力が「生きていくエネルギー」を育てるように願いをこめて
いまを生きる子どもたち、むかし子どもだったおとなたちに贈ります。

Presenter: コスモスペース×激弾BKYU×キーパーソン21 with いろえんぴつサポーター



観た人、演じた人、みんなの言葉

たくさんの方からいただいた感想から一部をご紹介します！

舞台写真撮影：巢山サトル



Message
from
Momo



とってもあったかい舞台ですごく元気をもらいました。
子ども達の笑い声が素敵でした。(42歳)

演劇を通して

伝えたいメッセージがあります
それは「生きる力」です

物語に共感することによって得られる感動がある
感動することによって得られる生命力がある

そう思っています

感じる力を持つ子どもたちの
あふれる優しさ
あふれる生命力が
今回も体育館に充満していました

ラストのモモのセリフのところに
こんなト書き（演出の状況説明）があります

「モモの声が、小さな声から、
だんだん自信を持った声になってゆく
それは、お客さんが懸命に
モモの話を聴いてくれるから
時間など関係なく、
モモの言葉に耳を傾けてくれるから
モモは次第に、
話したいことをたくさん喋り出してゆく」

今回もたくさんみなさんが
モモの言葉に耳を傾けてくれました
子どもたちが懸命に
モモを応援してくれました
この作品から
たくさん想いを受け取ってくれました

「伝え続けなくてはいけない」
あらためて感じています

モモ 東野醒子

はくりなくがすごく
きてよかった



5歳の子どもが感動して泣いたと言っていました。
小さい子にも伝わるんだと思いました。
ありがとうございました。

おもしろかったです。

忙しい毎日で子どもを急かしたり、話を聞いてあげられないことも多く、ぼーっとすること無駄に過ごすことを禁じる言葉を、たくさん子どもに投げかけてしまっており、心が苦しく涙が止まりませんでした。



初めて観ました。
コトバの1つ1つが素晴らしかった。
涙が止まりませんでした。
モモのコトバ、大切にしたいです。
ゆっくり、ゆっくり、
ゆっくり……。 (39歳)



全力感が伝わってきた。
次回も是非観たいし、続けていただきたい。
(25歳)



自分が“グレイッシュNo.0”と出逢って11年経ちました。
この11年を振り返ると、自分の成長と共に“No.0”も変わって行きました。
そして今“No.0”を演じる上で一番気を付けているのは、
この物語のヒーロー的な存在になってはいけない！という事です。
彼は正に現代に生きる悩める青年であって、モモと出逢えた事で、
自分らしく“生きる”少しの勇気を見つける事が出来ただけであるという事
そう、誰もが持てる、持っている勇気をです。

Message
from
Grayish No.0



グレイッシュ達に最後に“No.0”が言う
『我々は我々自身、一人一人が、自分の力で、
ものを考えなければいけない』

この言葉を大切に、しっかり届ける事が
“No.0”と私の役割と思って演じています。

グレイッシュNo.0 小林博

とっても感動しました。
モモの物語が、今の時代の物語に
なっていて、考えさせられました。

カメがよめたニ

小学1年生の息子、
最後に感動して涙が出たと言っていました。
感動と笑いをありがとうございました！



グレモモは2回目でしたが、観るたびに新鮮で、
考えさせられることが多い物語だな…と思います。
どんどん引き寄せられ、感動いたしました。
また子どもに観せたいです。(もちろん大人の我々も)
ありがとうございました。またぜひ、どこかでやって下さい。(38歳)

この作品は5回目になります。モモのラストシーンにはいつも涙がとまりません。
多勢の人に観てもらいたいです。ありがとうございました。

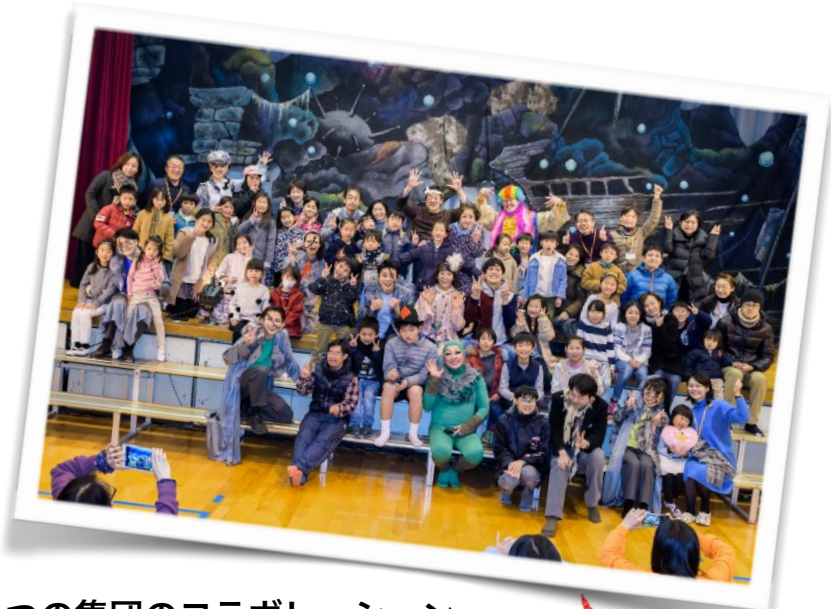
体育館が劇場に。すてきな試みですね。
たくさんの親子で舞台を共有できて、いい時間でした。
ラストで、モモの口から物語があふれて良かったです。

うたっておどるところがものしかった
です



子ども達の応援の聲が
物語の中に溶け込んだ
一期一会の舞台でした。
来年また会いましょう！

上演後、恒例の撮影会▶



「いろえんぴつプロジェクト」の活動は3つの集団のコラボレーションから生まれました。私たちはさらに多くの人たちとつながり、活動を広げて行きたいと願っています！

激弾BKYU <http://www.bkyu.com>

●プロフェッショナルな演劇集団による創意工夫と役者がスタッフを兼任するなど、舞台製作コストの大幅削減にも協力しています

認定NPO法人キーパーソン21 <http://www.keyperson21.org>

●寺子屋事業の一環として学校と連携、会場設営、地域広報などのコーディネートを担当しています

コスモスペース <http://cosmospace-web.com>

●プロジェクトの企画や広報、オリジナルデザインの商品を制作販売するなど全体をプロデュースしています



「グレイッシュとモモ」は、私たち大人が忘れてしまいそうになる大切なことを思い出させてくれます。今年も、地元川崎は武蔵小杉の今井小学校の体育館で公演いただけたこと、親子でたくさんの方が参加くださったこと、嬉しく誇りに思います。保護者の皆さん、川崎市教育委員会、コスモスペース、激弾BKYU、キーパーソン21、たくさんの方々みんなの幸せへの想いがここに結集しました。感謝でいっぱいです。

認定NPO法人キーパーソン21代表理事
朝山あつこ

ある日、ミハヤエル・エンデさんが、ボクに“種”をくれました。

—『モモ』という“種”

その“種”を、懸命に育てたら『グレイッシュとモモ』という“花”が咲きました。

そしてその“花”は、また“新しい種”を生み出しました。

その“新しい種”を、遠くの町まで運んでくれるモノが現れました。

幸い、その“新しい種”は、その土地で芽を出すことができました。

その土地のモノ達が大事に育ててくれたからです。

水をもらい、光を受けて、その“新しい種”は、スクスク育ってゆきました。

やがて葉が繁り、そして……

エンデさんは、ある学校で自分の作品を朗読した後、生徒たちのインタビューに答えたそうです。

「私の本は、分析されたり解釈されたりすることを望まない。

それは体験されることを願っている」と。

以前、ドイツで酷評されたインテリの大人たちに向けての言葉でもありました。

花をみて、美しいと感じる心に難しい解釈はいらないのです。

ダンスや歌を楽しむものに理屈はいりません。まさに“劇”も同じです。

まずは社会の重い荷物を肩からおろし、ありのままの心で観劇して下さい。

その荷物を、また背負う勇気を与えることが“劇”にとっての至上の喜びなのですから。

さて、今回の『グレイッシュとモモ』は、その土地で、どんな花を咲かせるのでしょうか。願わくば、ご覧になったお客様、ひとり一人に、また“新たな種”を

持ち帰ってもらえれば、ありがたき幸せにございます。

脚本・演出・出演／激弾BKYU 主宰 酒井晴人

1996年の初演以来、大小さまざまな劇場やスペースで上演されてきた「グレイッシュとモモ」は、その時代や状況に応じて、変幻自在に姿を変えながら「いま伝えたい大切なこと」を語り続けています。初演当時10代だった子どもたちは今30代。かつての子どもたちは、今、子どもたちにどんな物語を伝えているでしょう。どんな時代であっても、一人ひとりが持てる「心の時間」の大切さを、これからも「グレイッシュとモモ」は伝え続けて行くはずで。

コスモスペース 代表 梶真理子

これからも「いろえんぴつサポーター」としてプロジェクトを応援して下さいますようお願いいたします！

お問合せ先／コスモスペース ●住所：川崎市多摩区登戸3402-D <http://cosmospace-web.com>

E-mail : info@cosmospace-web.com Tel : 070-3537-2607 (担当：つつみ) Fax : 044-934-8902